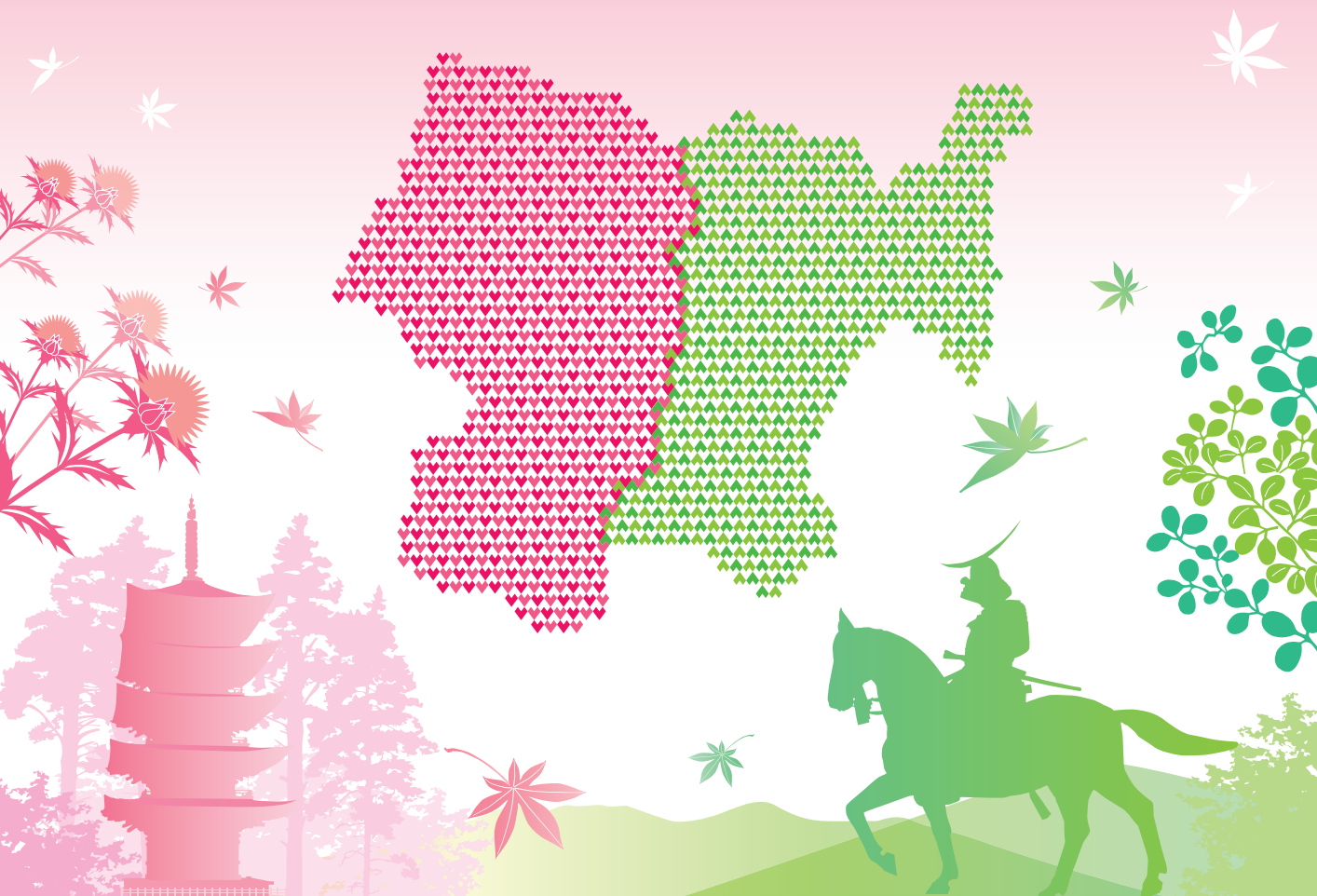




じもと

HOLDINGS

じもとホールディングス ミニディスクロージャー誌



きらやか銀行



仙台銀行

《じもとホールディングス3周年記念号》

2015
9月期

きらやか銀行 仙台銀行

—『本業支援』をNo.1かつOnly1へ—

『本業支援』を通じて、じもとグループ全体でお客さまの悩みや課題の解決に向けて取り組んでまいります。

PROFILE

じもとホールディングス

設立年月日 平成24年10月1日
本社所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
電話番号 022-722-0011(代表)

資本金 170億円
上場取引所 東京証券取引所
ホームページ <http://www.jimoto-hd.co.jp/>

きらやか銀行

本店所在地 山形市旅籠町三丁目2番3号
電話番号 023-631-0001(代表)
設立年月日 平成19年5月7日
資本金 227億円
預金・譲渡性預金 13,544億円
貸出金 10,138億円
従業員数 1,002人
店舗数 117カ店(県内99カ店、県外18カ店)^(注)

^(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗
統合による実質店舗数は78カ店(うち出張所3カ店)
(県内62カ店、県外16カ店)、インターネット支店を除く。

ホームページ <http://www.kirayaka.co.jp/>

仙台銀行

本店所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
電話番号 022-225-8241(代表)
設立年月日 昭和26年5月25日
資本金 224億85百万円
預金・譲渡性預金 10,824億円
貸出金 6,322億円
従業員数 719人
店舗数 72カ店^(注)

^(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式
での店舗統合による実質店舗数は61カ店
(うち出張所4カ店)。

ホームページ <http://www.sendaibank.co.jp/>

(平成27年9月30日現在)

CONTENTS

- | | | | |
|------------------------------|-----------------|--------------------|--------------------|
| ●会社概要……………巻頭 | ●じもとグループの本業支援事例 | ●トピックス | ●業績ハイライト |
| ●ごあいさつ……………01 | きらやか銀行……………04 | きらやか銀行……………06 | じもとホールディングス……………09 |
| ●じもとホールディングス
3年の歩み……………02 | 仙台銀行……………05 | 仙台銀行……………07 | きらやか銀行……………10 |
| | | じもとホールディングス……………08 | 仙台銀行……………12 |
| | | | ●株主の皆様へ……………14 |

ごあいさつ

平素より格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

当社は、平成24年10月に株式会社きらやか銀行と株式会社仙台銀行の共同持株会社として誕生し、おかげさまで3周年を迎えることができました。

当社では、設立当初より「お客さまに喜ばれ、信頼され、『じもと』とともに進化・発展する新たな金融グループを創設する」という経営理念のもと、グループ役職員が一丸となって宮城と山形をつなぎ、両県の経済交流の発展に貢献してまいりました。

そして4年目、じもとグループは新たなステージを目指します。県境を越えた地域金融グループの特徴を最大限に発揮し、お取引先様への本業支援を更に進化・発展させ、地方創生と地元企業の成長・発展に注力してまいります。また、グループ経営の効率化・合理化に取り組み、統合効果を更に発揮してまいります。

本誌では、平成27年9月期のグループ業績とともに、両子銀行が取り組んでいる「本業支援」の事例についてもご紹介しておりますので、是非ご高覧ください。

皆様方におかれましては、今後ともじもとグループに更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年11月

株式会社じもとホールディングス

取締役会長 鈴木 隆学

取締役社長 栗野 学



TOP MESSAGE



じもとホールディングス 3年の〈歩み〉

平成27年10月1日、じもとホールディングスは設立3周年を迎えました。
これからも宮城と山形の「人・情報・産業」を「本業支援」で
つないでまいります。

1年目(平成24年10月～平成25年9月)

じもとホールディングス 誕生

東日本大震災を乗り越え、宮城と山形の県境を越えた地域経済をつなぐ新たな地域金融グループを設立しました。



H24.10

◀じもとHD誕生



◀山形花笠まつり
両行合同参加

H25.08

青葉まつり
すずめ踊り
両行合同参加



① H24.10

じもとHD 東証一部上場

② H24.12～H25.01

じもと初のIR開催



H25.05

3年目(平成26年10月～平成27年9月)

「本業支援」の更なる進化・発展

「宮城・山形をつなぐ」というじもとグループの特徴を更に発揮するため、「本業支援戦略部」を新設しました。
これまで以上にスピーディかつ高度な対応ができる体制となりました。



H26.10

◀本業支援戦略部
新設



H27.01

◀きらやか銀行に
「復興支援応援コーナー」
設置

両行ロビー展で
お互いの県をPR

仙台銀行に
「酒田名物・傘福コーナー」
設置 ▼



⑤ H27.02(仙台)/H27.08(山形)

個人投資家向けIR開催

⑥ H26.11

両行相互トレーニング実施

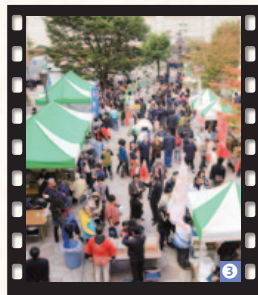
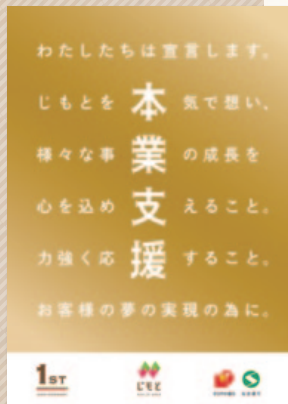


H27.01

2年目(平成25年10月～平成26年9月)

グループの経営戦略を「本業支援」へ統一

「本業支援」をグループの統一方針として掲げ、グループ全体でお客さまの問題解決に取り組みました。
両行の会議体や制服等を統一し、グループの一体感を育みました。



H25.10

「みやぎ復興感謝祭
海の市 in 山形」開催



▲両行女性行員の
制服を統一



H25.11

両行合同
「食」の商談会開催

未来に向けて

お客さまの“喜び”のため、地域の“喜び”を目指して…

新たな「中期経営計画」で更なる飛躍

キーワードは

“本気の”本業支援・統合効果発揮

本気の本業支援

グループの特徴である「本業支援」の進化・発展

本気の統合効果発揮

じもとグループの統合効果・相乗効果により、経営の効率化・合理化

お客さまとの想いを繋げる本業支援

寒河江市の株式会社パオラレディ様は、婦人服の縫製業を営んでおられます。

同社の武田社長は、平成27年3月、同社専務を経て社長に就任されております。新社長に就任するにあたり、「新経営計画を打ち出し、組織力の強化・人材育成を行ないながら今後の会社経営に臨みたい」と事業承継に対する思いを伺い、計画策定のお手伝いをさせて頂くこととなりました。

武田社長も事業承継することへの大きな希望を抱きながらも、少しばかりは不安もあったものと思います。今回、計画の作成をお手伝いさせていただくことで、社長の抱く希望・期待を顕在化させ、良き相談相手となることで少しでも不安を払拭することができればと考えておりました。作成にあたっては社長との対話を重ねることで、1：経営方針、2：具体的な実行施策、3：中期収益計画を盛り込むこととなり、特に収益計画の策定にあたっては生産性の向上に焦点をあてた取り組みを実施することとし、社長と一緒に工場内を回り、現有設備と人員配置の把握・見直しを行なった結果、設備更新を図ることで生産効率の向上が期待できる状況とわかりました。その後、今回の社内の業務状況・設備状況の見直しを活かし、設備投資促進の補助金申請を行い採択を受けることにもなり、近く設備を導入する予定となっております。

この度、武田社長とたくさんお話しをしたことで、事業を承継することへの熱い想いを感じることができ、自分も同じ気持ちで精一杯の本業支援に取り組もうと、改めて決意しました。

私にとっての本業支援とは、お客さまの想いを繋ぎ、実現化することでもあり、中小企業の経営者様が代々事業を繋いでいくことへの思いを共有することでもあります。これからもお客さまとの対話を大切に、共に歩んでいける銀行員を目指していきたいと思います。



プロフィール

きらやか銀行 寒河江支店

引屋 健太郎 代理

法人渉外担当

休日は、子供と一緒に遊んで過ごしています。



VOICE 喜びの声



株式会社パオラレディ
代表取締役会長
武田 善雄 様

株式会社パオラレディ
代表取締役社長
武田 雄一 様

弊社は昭和46年の創業以来、きらやか銀行には長年にわたりご支援を頂き今日まで歩んでまいりました。そして、ものづくりにおいて国内外からも評価される『メイドインジャパン』の品質を維持する技術を構築し、お取引先の多様なニーズに応えられる企業へと成長を遂げております。

そんな中、今年の3月、創業者の先代社長より事業を承継する事になり、その際、きらやか銀行には、現状の経営課題についてご教示いただき、新たな経営計画の打ち出しにご尽力いただきました。おかげ様で取り組む課題が明確化され、今日まで順調に推移致しております。

又、担当の引屋さんには身近な存在として、弊社の事業内容、経営理念などを十分ご理解頂き親身なアドバイスと対応を頂いております。

今後も、良きパートナーとして事業発展に向けてサポート願えたらと思っています。

お取引先の目標実現へ“本気の本業支援”を迅速に実践

私が担当する中寛コールド株式会社様(仙台市)は、食品工場やスーパー向けの冷凍・空調設備の販売設置・メンテナンス業務などを営んでおられます。

当社事務所は私が勤務する卸町支店の近くにあり、日頃から定期的に訪問して中島社長への情報提供や情報交換を行っております。

その中で今回、自社事務所の購入と移転のご相談がありました。常々目標と語られていた自社事務所の購入。中島社長のご相談内容は、事務所購入に必要な資金調達のほか、警備会社や保険会社、リース会社の紹介依頼など、目標の実現に向けて多岐にわたるものでした。

私は、今回のご相談が当社の重要かつ長年の経営目標であるため、迅速な対応が求められていると考えました。早速、ご希望に合う各取引先との面談セッティングなどを行い、事務所購入に向けた商談をスムーズに成立することができました。

今回、中島社長の目標の一つである自社事務所購入を当行にご相談いただいたこと、そしてその実現をサポートし、お役に立てたことを心から嬉しく思っております。

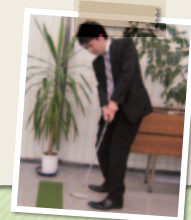
常にお客さまの立場で考え、お客さまのご相談には可能な限りすぐに行動を起こすこと。これが私の「本気の本業支援」であり、今後も継続的に実践する中で、お客さまからたくさんの「ありがとう」の感謝の言葉をいただけるよう頑張っております。



プロフィール

仙台銀行 卸町支店
阿部 茂 支店長代理
渉外担当

趣味はゴルフ。日々上達に向けて色々な所で練習をしています。



VOICE 喜びの声



中寛コールド株式会社
代表取締役
中島 寛 様

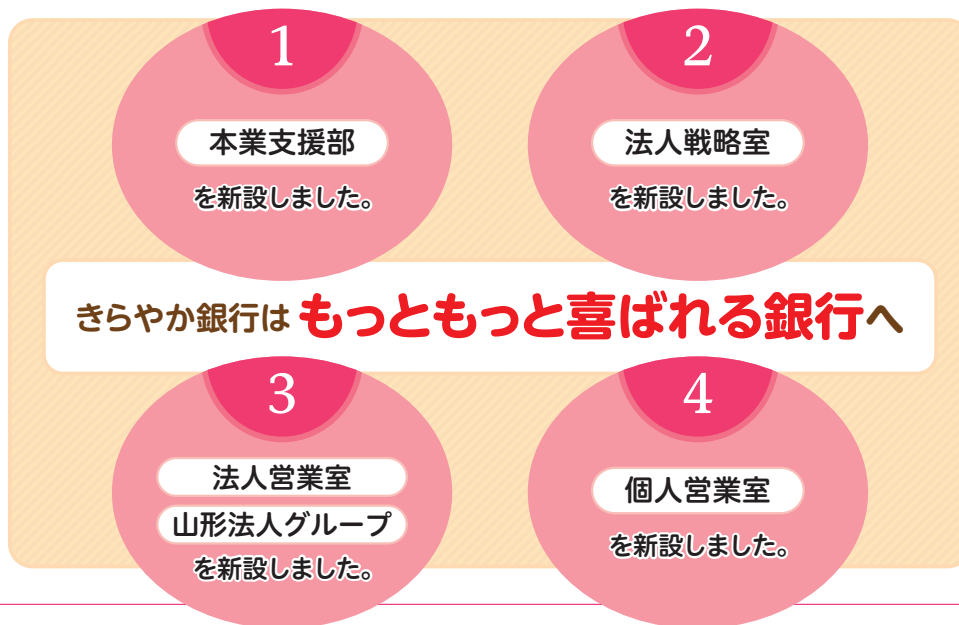
これまで金融機関は敷居が高く、お金を借りる場所というイメージがありました。でも今回の件を通じて、仙台銀行にはそのようなことは全くなく、事業を行っていく上で様々な問題や悩みの相談に乗ってもらい、支援してくれる良きサポーターであると感じることができました。

今回、阿部さんには様々な相談をしましたが、相談をすればすぐに対応していただき、とてもスムーズに悩みや課題を解決することができました。自社の事務所を所有するという私のひとつの目標を叶えることができ、大変感謝しています。

これからも、事業を行っていく中で様々な課題が出てくると思いますが、身近で親しみやすく何でも気軽に相談できる仙台銀行であってほしいと思います。

営業体制の刷新!!

“もっともっと喜ばれる銀行”を目指し、
「本業支援」の更なる強化へ



1. 「本業支援部」を新設しました。

「本業支援推進部」、「営業推進部」、「仙台法人営業部」の3部門を統一融合することで、本業支援、中小企業融資、職域取引の推進の一体化やサービスの充実を図ってまいります。

3. 「法人営業室」、「山形法人グループ」を新設しました。

「本業支援部」内に「法人営業室」を設置し、更に「山形法人グループ」を設置することにより、山形地区における営業体制を強化するとともに、先進的かつ高度なご提案を積極的に行ってまいります。

2. 「法人戦略室」を新設しました。

「本業支援部」内に「法人戦略室」の設置により、本業支援の高度化や中小企業取引拡大に向けた戦略に特化することで、商品やサービスの充実を図ってまいります。

4. 「個人営業室」を新設しました。

「営業統括部」内に「個人営業室」を設置してお客さまの資産運用相談に特化したFA^{*1}を増員、併せて営業店にMA^{*2}を配置、個人のお客さまの資産運用に特化する行員を増員します。これにより、個人資産に係る多様化するニーズにお応えします。

※1. FA=フィナンシャルアドバイザー ※2. MA=マネーアドバイザー

被災地の復興を支援!!

～被災地へ新店舗の出店を決定～

●被災地・南三陸町歌津地区へ店舗再出店を決定

当行は、平成28年春ごろを目途に南三陸町歌津地区に歌津支店を再出店いたします。

歌津支店は、東日本大震災の津波で全壊し、平成26年1月に同町志津川地区の新店舗にて志津川支店と同居する形で業務を再開しておりましたが、復興支援や被災者の利便性回復をさらに進めるため再出店いたします。



歌津支店完成予想図

●荒井支店を新規出店、新店舗には南小泉支店も移転

当行は、平成28年春ごろを目途に仙台市若林区の荒井西土地区画整理地内に荒井支店を新規出店いたします。また、南小泉支店の店舗老朽化が進んでおり、新店舗内に移転・同居することで金融サービスを向上させます。

荒井西地区は沿岸部被災者の防災集団移転地区となっており、当行の新店舗出店により、被災者の生活利便性の回復にも貢献してまいります。



荒井支店・南小泉支店完成予想図

女性の活躍を応援!!

～育児休業者をフォローアップ～

当行は、平成27年4月、10月に、女性の活躍を応援するため育児休業者向けフォローアップセミナーを開催いたしました。セミナーでは、先輩行員による職場復帰の体験談や銀行業務に係る様々な情報提供、参加者同士の情報交換等を行い、育児休業者が不安なく職場へ復帰できるようにフォローを行いました。

今後も当行は、女性が育児と仕事を両立して活躍できる環境作りに取り組んでまいります。



地元企業の成長を支援、じもと創生本業支援ファンドを組成

じもとグループのきらやか銀行と仙台銀行は、平成27年10月に日本政策投資銀行と「じもと創生本業支援ファンド」（10億円）を新たに組成いたしました。

このファンドは、地元の中堅・中小企業が新規事業へ進出、あるいは事業拡大に向けて財務基盤を強化するなど事業成長に取り組まれるにあたり、優先株式や劣後ローン等の成長資金を提供し、地元企業の成長発展と地域雇用の創出を支援するものであります。

じもとホールディングスTVCM 「あしたへつなぐ篇」制作

じもとホールディングスは、じもとグループの新しいイメージテレビCM「あしたへつなぐ篇」を制作し、平成27年10月から宮城県と山形県で放送しております。

今回のCMでは、宮城県沿岸部の水産業者と山形県の小売業者をつないだ当グループのビジネスマッチングの実例を紹介し、本業支援を通じて両県の「人・情報・産業」をつないで地域経済の復興と創生に貢献していく当グループの長期ビジョンをアピールしております。当グループの“想い”を込めたテレビCMをぜひご覧ください。



宮城県へ震災復興寄附金を贈呈

じもとグループのきらやか銀行と仙台銀行は、平成27年10月、宮城県に震災復興への寄附金200万円を贈呈いたしました。

この寄附金は、平成27年6月～8月に実施したグループ共同キャンペーン「東北の夏、じもとの夏2015」において、お客さまにお預け入れいただいた定期預金の一定割合を、復興支援金として寄附したものです。

今後もしもとグループは、様々な形で、震災復興と地域経済活性化に貢献してまいります。



宮城県庁での贈呈式

じもとホールディングス連結業績

(単位:百万円、%)

	26年9月期	27年9月期	前年同期比	増減率
経常収益	21,242	21,889	647	3.0
経常利益	3,441	3,258	△183	△5.3
親会社株主に 帰属する 中間純利益	3,450	3,293	△156	△4.5

平成27年9月期の連結業績は、経常収益が218億89百万円、経常利益が32億58百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は32億93百万円となりました。

きらやか銀行・仙台銀行(単体)の2行合算

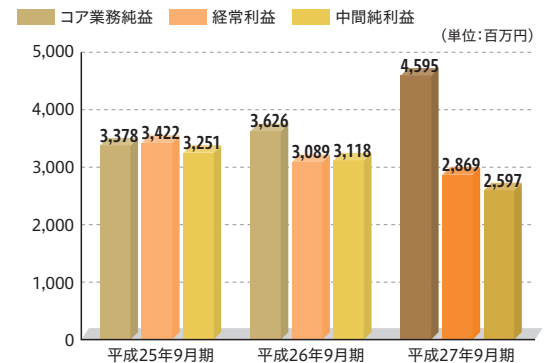
(単位:百万円、%)

	2行合算			
	26年9月期	27年9月期	前年同期比	増減率
経常収益	20,772	21,185	412	1.9
業務粗利益	16,061	17,205	1,143	7.1
経費 (除く臨時処理分)	12,751	12,902	151	1.1
業務純益	3,521	4,950	1,428	40.5
コア業務純益	3,626	4,595	969	26.7
経常利益	3,089	2,869	△220	△7.1
中間純利益	3,118	2,597	△520	△16.7
貸出金	1,555,787	1,646,036	90,249	5.8
預金等 (譲渡性預金を含む)	2,448,932	2,436,851	△12,081	△0.4
有価証券	790,054	723,022	△67,032	△8.4

2行合算の経常収益は、前年同期比4億12百万円増加の211億85百万円となりました。

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや物件費の削減に努めたことにより、前年同期比9億69百万円増加の45億95百万円となりました。

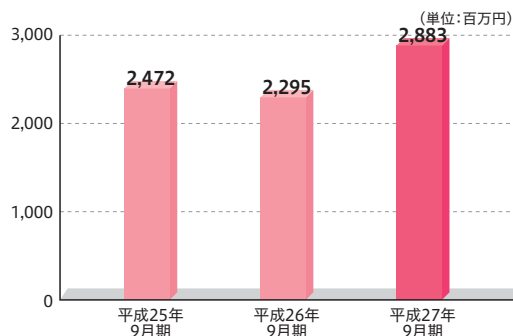
経常利益は、前年同期比2億20百万円減少の28億69百万円、中間純利益は前年同期比5億20百万円減少の25億97百万円となりました。



業績ハイライト(単体)

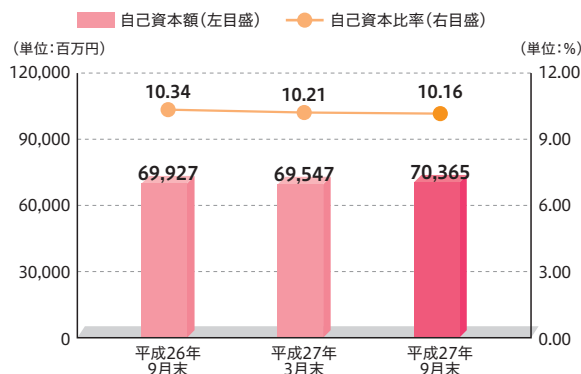
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや、更なる経費削減に努めた結果、物件費が減少したことなどから、前年同期比5億88百万円増加の28億83百万円（増減率25.6%）となりました。



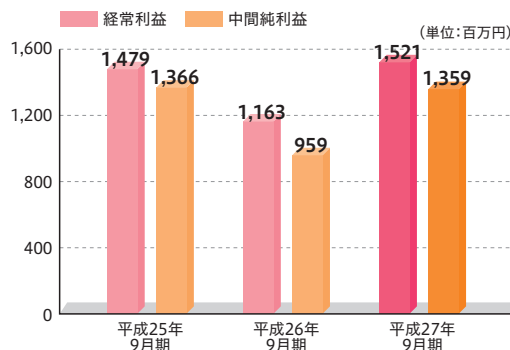
自己資本比率の状況

自己資本比率は、中間純利益を13億59百万円計上し、自己資本額（分子）が増加しましたが、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、平成26年9月末比0.18ポイント低下の10.16%となりました。



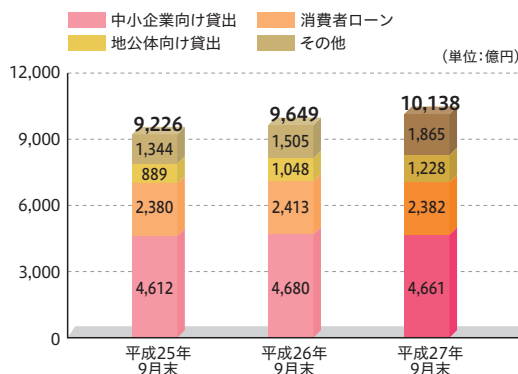
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は前年同期比3億58百万円増加の15億21百万円、中間純利益は前年同期比4億円増加の13億59百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、市場性ローンや地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成26年9月末比488億91百万円増加の1兆138億4百万円となりました。

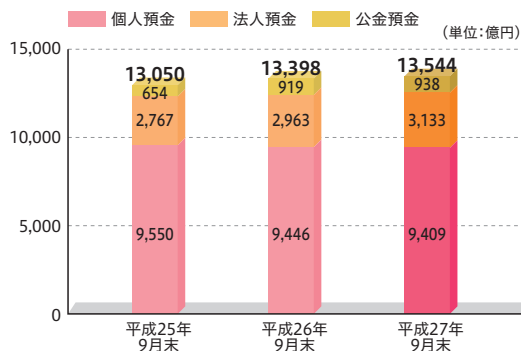


用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

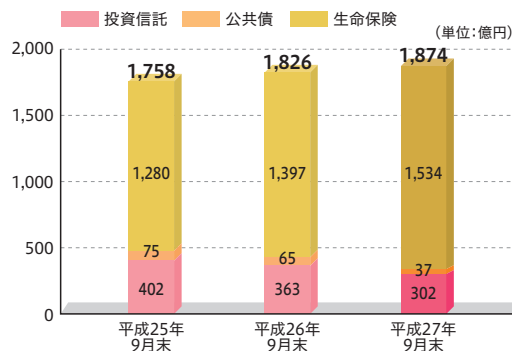
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が減少したものの、法人預金及び公金預金が増加したことから、平成26年9月末比146億円増加の1兆3,544億3百万円となりました。



預かり資産の状況

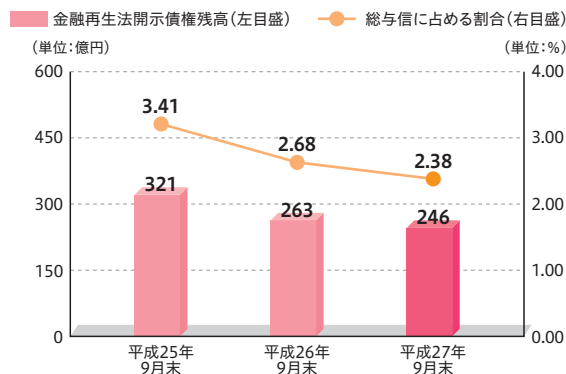
預かり資産残高は、安定志向にあるお客様ニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成26年9月末比47億41百万円増加の1,874億15百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成26年9月末比17億50百万円減少の246億22百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成26年9月末比0.30ポイント低下の2.38%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



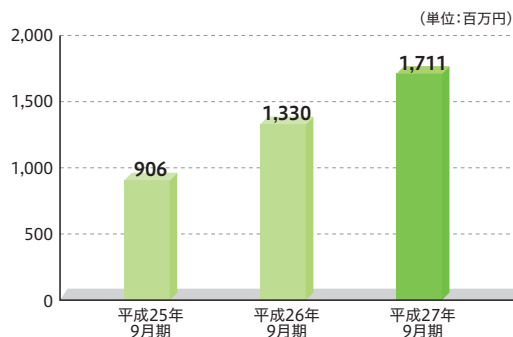
■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

業績ハイライト(単体)

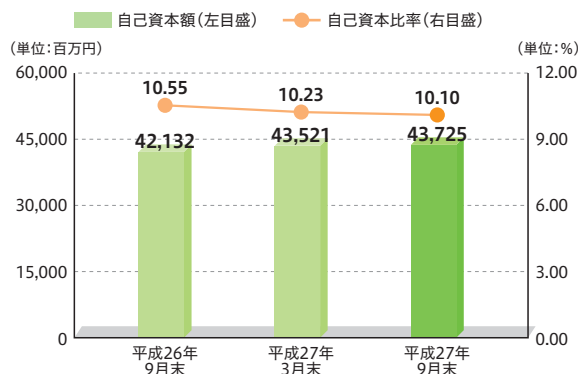
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや物件費が減少したことなどから、前年同期比3億80百万円増加の17億11百万円(増減率28.6%)となりました。



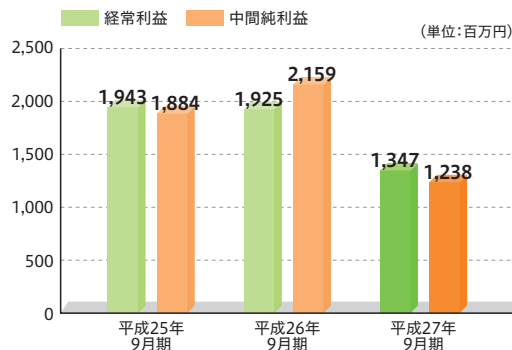
自己資本比率の状況

自己資本比率は、中間純利益を12億38百万円計上し、自己資本額(分子)が増加しましたが、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、平成26年9月末比0.45ポイント低下の10.10%となりました。



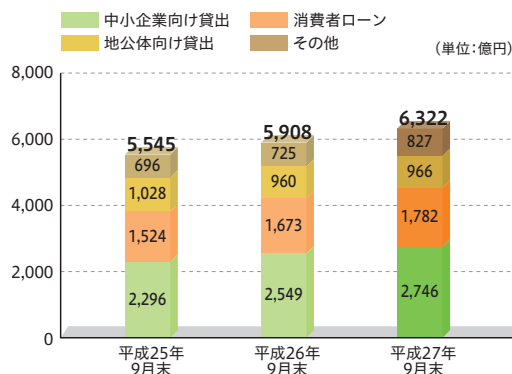
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は、前年同期比5億78百万円減少の13億47百万円、中間純利益は、前年同期比9億21百万円減少の12億38百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、復興支援に係る様々な資金需要への対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン、個人ローンが増加したことなどから、平成26年9月末比413億58百万円増加の6,322億31百万円となりました。

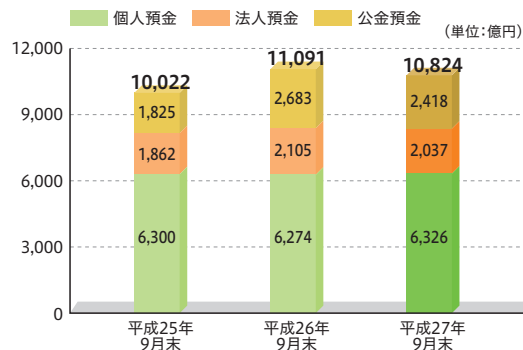


用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

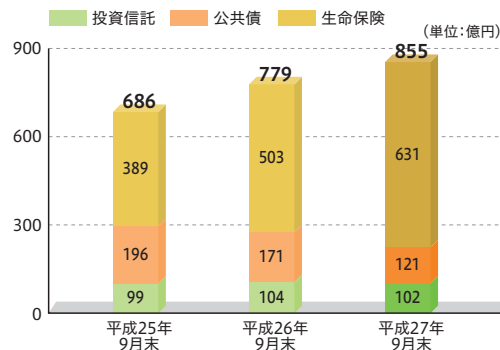
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が増加したものの、法人預金や公金預金が減少したことなどから、平成26年9月末比266億81百万円減少の1兆824億47百万円となりました。



預かり資産の状況

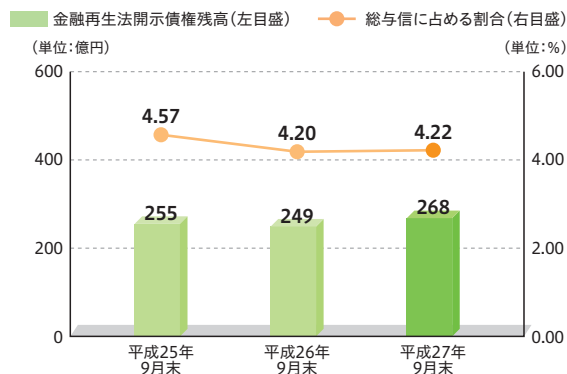
預かり資産残高は、お客さまの保険運用ニーズが依然として高く生命保険残高が増加したことなどから、平成26年9月末比75億26百万円増加の855億19百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成26年9月末比19億7百万円増加の268億81百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成26年9月末比0.02ポイント上昇の4.22%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

株主の皆様へ

株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年といたします。
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日。
基準日	定時株主総会については、3月31日といたします。その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告といたします。 【公告掲載ホームページアドレス】 http://www.jimoto-hd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞、仙台市において発行する河北新報および山形市において発行する山形新聞に掲載して行います。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社 本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続お取扱店 （住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店および全国各支店でもお取扱いたします。 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗） みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ・ みずほ銀行 本店および全国各支店 （みずほ証券では取次のみとなります）
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。みずほ証券で単元未満株式の買増請求手続をされる場合は、事前にみずほ信託銀行が指定する口座に送金していただく必要があります。

お問合せ先

みずほ信託銀行 株式会社

 0120-288-324

上場株式配当等の支払に関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、平成28年の確定申告の添付資料としてご使用ください。

なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、平成28年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式会社 じもとホールディングス

〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
TEL.022-722-0011（代表）
<http://www.jimoto-hd.co.jp/>

株式会社 きらやか銀行

〒990-8611 山形市旅籠町三丁目2番3号
TEL.023-631-0001（代表）
<http://www.kirayaka.co.jp/>

株式会社 仙台銀行

〒980-8656 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
TEL.022-225-8241（代表）
<http://www.sendaibank.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

平成27年11月発行